

インターネット調査の特性 ~ 面接 - ネット並行調査 ~

毎日新聞東京本社・世論調査室 福田昌史  
株式会社インフォプラント・RQI 出口慎二

1. 比較調査の概要

1.1 両調査の概要(表1)

	毎日(面接)	インフォプラント(ネット)
調査タイトル	・時事問題世論調査(面接) ・読書世論調査	社会や政治、生活に関するアンケート
調査期間	9月1, 2, 3	9月1日10:30~3日22:30
調査手法	訪問面接(時事問題) 留め置き(読書)	ボランティア型アクセスパネルを用いたインターネットリサーチ(期間設定型)
調査項目	計15問	計35問
	政治に関する質問(小泉政権の評価など)	
	年金制度に関する質問	
	裁判員制度に関する質問	
	インターネットの利用、1日平均 利用時間(読書世論調査)	・一般的な考え方や消費価値観に関する質問 ・電話やインターネットなどの利用状況に関する質問

1.2 両調査の対象者抽出(表2)

	毎日(面接)	インフォプラント(ネット)
抽出方式	層化2段無作為抽出	
地域の層別	・全国の市区町村を都市規模・人口規模によって、4つの層 大都市(東京23区、政令市) 中都市(人口20万人以上の市) 小都市(人口20万人未満の市) 町村部に分ける ・人口規模に応じて300の地点を各層に配分	
第1次抽出単位(地点)	大字・町・丁目	市区町村
地点の抽出	系統抽出	系統抽出
対象者個人の抽出	住民基本台帳から、16才以上の対象者を地点あたり16人を抽出(計4800人)	地点あたり12人を無作為抽出(計3600人) 調査対象となる地点の会員数が一定数を下回る場合は、次の地点と合併して1地点と見なし、対象者を抽出

1.3 回収状況

面接調査

回収数：2655(58%)

回収の特徴を見ると...

性別では、女性がやや上回っている 年齢別に見ると、一番高いのは50歳代の64%、20歳代は5割を切っている 都市規模で見ると、都市規模が大きくなるにつれて回収率が低くなる(町村部7割、大都市5割) 集合住宅に住む対象者からの回収は5割を切る

ネット調査

回収数：1593 (44.3%)

都市規模による回収率の差は見られない。

2 結果の比較

2.1 比較を通して知りたいこと

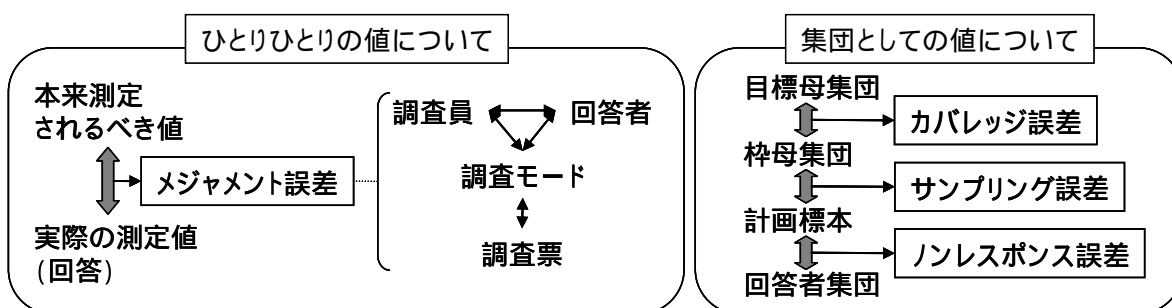
- ・データ回収方法としてのネット調査の特性
- ・面接調査の回答者集団と比較した、ネット調査の回答者集団の特徴
- ・面接調査の回答者の中のネットユーザーの意見と、ネット調査の回答者との比較
- ・ネット調査のサンプリングフレームがボランティア型である影響は見られるか

2.2 比較について(誤差の概念など)

2.2.1 調査に関わる誤差

調査の過程を構成する要素と誤差(主要なもの)

(図1 調査の過程を構成する要素と誤差の概観)



2.2.2 今回の比較に関係する誤差

今回の比較調査では、どの誤差が、どの程度影響しそうか・・・

(表3)

誤差の種類	面接	ネット	備考
カバレッジ誤差	ほぼゼロ	大	面接とネットでは、目標母集団に対するカバレッジは決定的に違う
サンプリング誤差 (標本誤差)	小	小	(ネット)アクセスパネルがある程度大きく、抽出標本数がいずれも同程度の場合
ノンレスポンス誤差 (無回答誤差)	中?	中?	全体的な回収率、あるいは「属性による回収率の違い」に、面接-ネット間で差がある可能性 回答する集団/しない集団間の回答の離れ具合に、面接-ネット間で差がある可能性
メジャメント誤差 (測定誤差)	中?	中?	自記式/他記式の違い(調査員の介在の有無、音声情報(ことば)のやりとりの有無)

### 2.3 無回答オプションの影響

- ・面接調査では「わからない」などの選択肢は設けていない（読み上げていない）
- ・ネットの調査画面では、一部の設問で、「わからない」「この中にはない」「いずれでもない」という選択肢を入れた。

例：

	面接	ネット
1. 現役世代の負担を引き上げ、給付水準を維持する	27	13.3
2. 給付水準をカットし、現役世代の負担は増やさない	40	36.3
3. 現役世代の負担を引き上げ、給付水準もカットする	17	18.0
わからない		32.4
無回答	16	

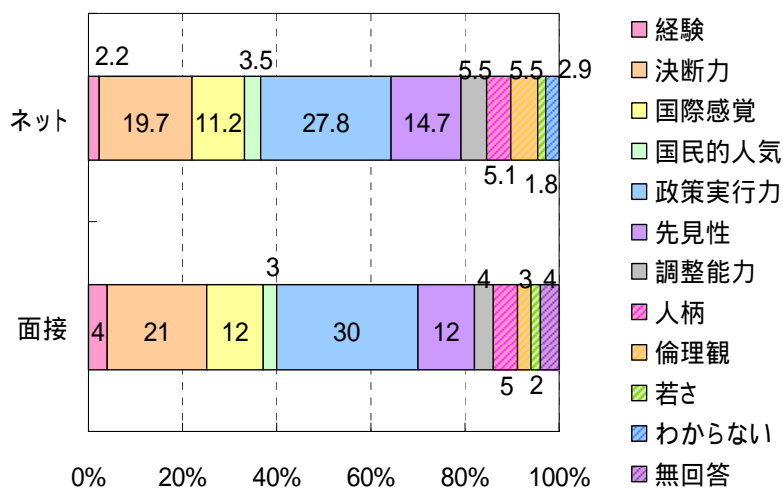
「意識の差」というより、データの測定方法、DK/NA オプションの有無による影響が大きい  
 このような質問では比較は難しい

### 2.4 比較

- ・面接調査とネット調査の間で、回答傾向が近い質問、回答傾向に差があるテーマ質問がある。
- ・今回の比較調査では、「政治に関する質問」の回答が近く、「年金に関する質問」、「裁判員制度に関する質問」では差が現われた。

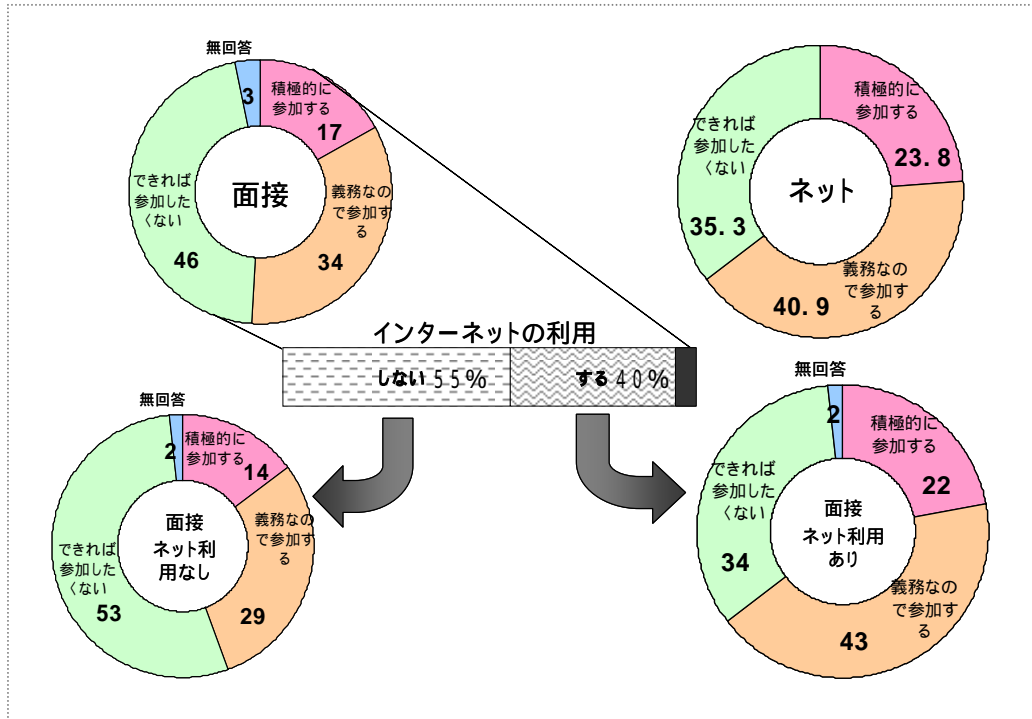
(グラフ1)

問 次の首相に必要な資質



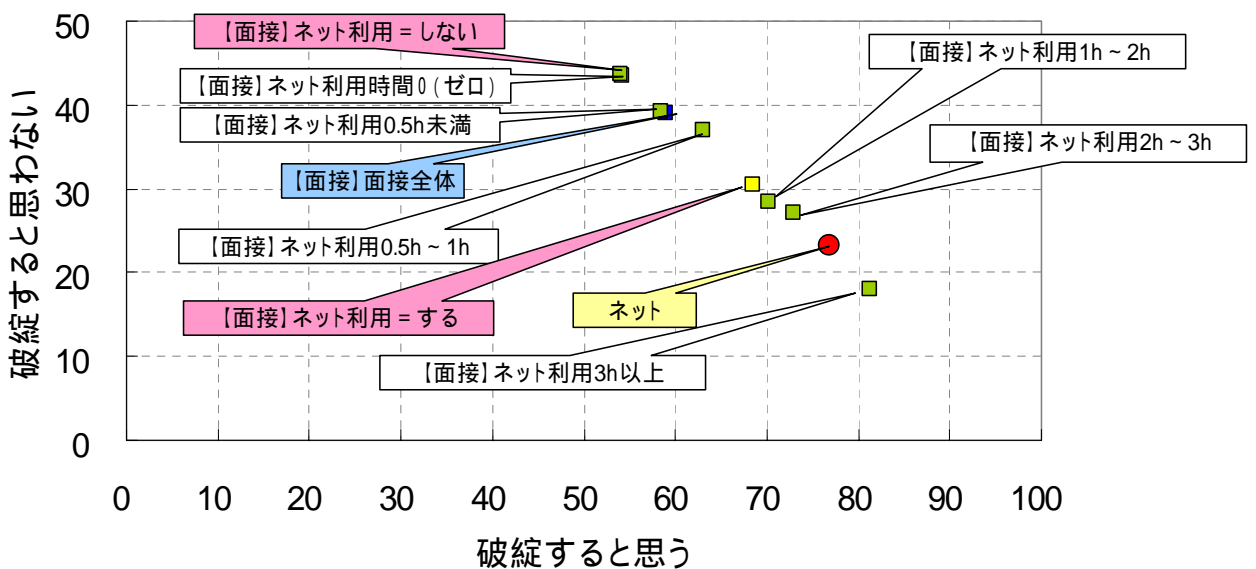
(グラフ2)

問 裁判員制度にどのような姿勢で臨むか



(グラフ3)

問 年金制度は破たんすると思うか



(表4)

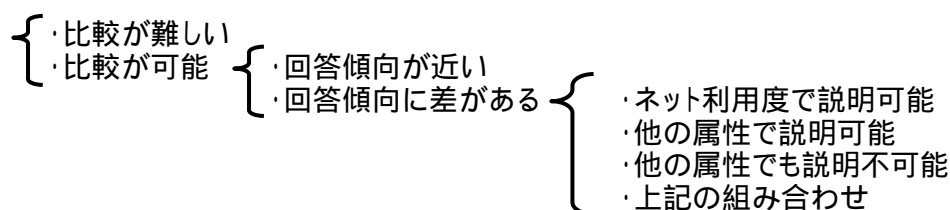
問 消費税を社会保障目的税化して引上げ、年金の財源にすることについて

	賛成	反対	無回答
面接全体	43	53	3
ネット全体	37	64	-
面接20代	32	66	2
ネット20代	29	71	-
面接30代	35	62	3
ネット30代	34	66	-
面接40代	40	58	2
ネット40代	42	58	-
面接50代	47	51	2
ネット50代	40	60	-
面接60代	52	45	3
ネット60代	76	24	-
面接70以上	50	45	5
ネット70以上	91	9	-

### 3. まとめ

#### 3.1 質問の分類

- ・比較の結果、調査に使用した項目は、およそ次のように分類できそう。



#### 3.2 まとめ

- ・なぜ「面接」と「ネット」で差が出たのか、今回使用した質問では、全ての質問で解釈可能だった。
- ・面接など、従来型調査の対象者のネットユーザーの意見は、ネット調査のパネルの意見とは違う、という見方もあるが、今回の比較結果を見る限りはそれほどでもない。
- ・また、パネル調査回答者は「意見を言いたい人たちの集団」「そのテーマに興味がある人たち」、「小遣い稼ぎ目的」などとも言われている。面接回答者はそのような性格は弱いだろうと考えられるが、それでも注意深く見比べるとネット回答者と同様の意見を持つ層が存在するようだ。
- ・同じ質問を繰り返し使い、傾向をつかむことによって、若い人（いまのところ、40代くらいまでか）の意見を収集するのにネットは有効
- ・将来、ネット利用層の年代が上がるにつれて、差が減少することが期待できる。その反面、ネット利用度・関わり方の多様性は無くならないだろう。「ネット利用度従属型質問」の差は残る。（ネットを使わない人も必ずいる）
- ・面接からネットの結果はある程度予想できるかもしれないが、ネットから面接の結果を予想するのはまだ難しいかも
- ・面接で「ネット利用度と相関が高い質問」はネット調査でも同様の傾向が見られるか、どの程度あるか、確認必要
- ・異なるリソース・ネット調査会社での検証や、他の質問での検証も必要